

ブダペスト通信

盛田 常夫



2023年 NO.4

1月31日

物議を醸しているオルバン首相のインタビュー

オルバン首相が EU やウクライナについての述べた外国人記者との共同インタビューは、ウクライナ政府の厳しい批判を初めとして多くの物議を醸している。当事者の一人であるオーストリアのタブロイド・ポータルサイト eXXpress の編集長であるリヒャルト・シュミットは、先の共同インタビュー記事の正確さを期すために、1月28日付と1月30日付の記事で、個別に行ったインタビュー内容を詳しく報道している（<https://exxpress.at/orban-im-talk-mit-exxpress-der-westen-ist-im-krieg-mit-russland-das-ist-reality/>）。なお、eXXpress はオーストリア人民党に近いメディアとして知られている。

2023年1月31日

このインタビューはオルバン政権が手塩にかけ、Fidesz 政権の息のかかったイデオロギーを吹き込むために再興した Corvinus 大学の分校 (Mathias Corvinus Collegium) の一室で行われた。この分校の評議会委員長を務めるのが閣僚会議次官のオルバン・バラージュで、この学校はいわば Fidesz が完全に実権を握る教育機関である。このインタビューにはリヒャルト・シュミットのほか、イスラエルのネタニヤフ首相の息子も同席した。

以下は、オルバン首相がシュミット編集長に述べた内容である。オルバン首相の考えを知るうえで、たいへん興味深い。



Orban im Talk mit eXXpress: "Der Westen ist im Krieg mit Russland, das ist Realität"

「西側は大きなトラブルに巻き込まれている」

この戦争はすでに西側とロシアとの戦争で、西側はますます戦争に巻き込まれている。西側の誰も、他のオプションを考えていない。イスラエルが停戦の仲介を行うというような。EU はハンガリーのことを異端児 (verrückten Guys') として扱っているから、我々が声を上げててもまともに相手にされない。

「プーチンは大統領選挙を控えているから、負けるわけにはいかない」

もしロシアの春の攻勢が成功したら、我々にいったい何ができるのか。一部の諜報機関が言っているように、NATO が兵士を送るのだろうか。しかし、ロシアの兵士は無尽蔵だから、すぐに兵員を増強することができる。

「ウクライナはアフガニスタン」

ロシアの戦争目的は、ウクライナを統治不能にすることだ。そうなれば、西側は助けようにも助けられない。この作戦は功を奏しており、ウクライナはアフガニスタンのようなもので、無人の国土だ (Niemandland)。

だから、即時停戦が必要なのだ。それは長い協議を必要とする。我々にはその手立てはないが。時はロシアにある。ロシアが我われと同じような思考を持っていると考えるのは間違いである。歴史が教えているように、圧力が強まれば強まるほど、ロシアも圧力を強めている。実際、東部戦線ではそうなっている。

「西側は勝利に向かって進んでいるのか。そうは思わない」

「停戦はロシアの軍を再編成する時間を与えるだけではないか」という質問にたいし、そうかも知れないが、ヨーロッパがロシアにたいして勝利する道を歩んでいるとは思われない。私はそのようには見ていない。ロシアとの抗争がヨーロッパの統合を固めることになるという考え方には同意できない。

「現在のヨーロッパの統治体制は崩壊する」

2030 年までに現在のヨーロッパの政治体制は崩壊するだろう。「ハンガリーの利益のために、ハンガリーは EU に残るべきか」という質問にたいし、「Definitiv nicht. Aber wir müssen (Definitely not. But we must)」と答えている。正常な考え持っている正常な人は、EU に残りたいとは思っていない。ハンガリーと EU との間のギャップは広がりつつある。

ドイツやフランスの首脳が何を話し合っているかを知っている。移民問題やジェンダー問題について。ハンガリーは伝統的な家族の価値観を重視しており、西ヨーロッパの価値観とは異なる。彼らはヨーロッパ合衆国を目指しているが、我々は違う。

「ウクライナ戦争は同盟を崩壊させる」

現在のヨーロッパの統治体制は 2030 年までに崩壊するだろう。そして、伝統的なヨーロッパに戻るだろう。ヨーロッパの保守はそのリーダーを必要とするだろう。

今次の戦争は多くの物を破壊した。我々にもスロヴァキア、チェコ、オーストリア、イタリアとの関係悪化という結末をもたらした。しかし、イタリアの新しい首相メローニはハンガリーの首相をゲームチェンジャーと考えている。イタリアは復興資金を必要としており、3月までEUと交渉しなければならない（ハンガリーと同様に）。

「私は何事につけても黒い羊（Ja, ich bin der Bastard für alles）」

私のような主張すると、人々はすぐに「ファシスト」とか、「反ジェンダー主義者」とか呼ぶ。要するに、すべてにおいて、私は「黒い羊」なのだ。しかし、いったい現実には何が重要なのだろうか。重要なのは、選挙民、有権者である。もちろん、有権者の支持を得るだけでは十分ではなく、（国内で）敵対者を作らないことだ。だから私は愛国的なハンガリー人クリスチャンなのだ。

盛田注：この最後のオルバンの文言は、彼の言動を知るうえできわめて興味深い。オルバン（Fidesz）にとって最大の関心事は、いかにして権力を維持するかである。権力維持を永続化するために、あらゆる手段を使っている。それを合理化する理由やイデオロギーは後から付いてくる。

現在の Fidesz の政策の出発点は、「いかにしたら権力維持を堅固化できるか」である。そのために、EU との対立を煽り、EU の理不尽な要求からハンガリーを守る Fidesz を強調する。EU をけん制するために、ロシアや中国とのあからさまな関係取り決めをためらわない。ロシアや中国との関係は、Fidesz やそれを取り巻く「実業家」や政治家たちの裏金形成にも大いに貢献している。

他方、ハンガリーは EU の復興資金援助なしには、教員の給与引き上げもできない。補助金が出たら、給与を引き上げると約束しているが、補助金に頼る給与引き上げで反

先が知れている。自らの力で国民の所得水準を上げることができない。市場経済の発展を抑制し、縁故資本主義の道を歩む限り、国民全体の所得水準を上げることができず、一部の腐敗実業家を肥やすのみである。

EU に頼らなければ生き延びることができない経済システムを構築しながら、ヨーロッパの政治権力の崩壊を予言するのは笑止千万である。ハンガリーの国民経済システム崩壊や、Fidesz 権力の崩壊の方が、はるかに早いだらう。自らの権力が永遠に続くと考える傲慢さは、墓穴を掘ることになろう。